

平成22年3月期 第2四半期決算短信(非連結)

平成21年10月30日

上場取引所 JQ

上場会社名 株式会社 ワットマン

コード番号 9927 URL <http://www.wattmann.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長

(氏名) 清水 一郷

問合せ先責任者 (役職名) 取締役副社長経理管掌

(氏名) 田中 和雄

TEL 045-959-1100

四半期報告書提出予定日 平成21年11月13日

配当支払開始予定日 —

(百万円未満切捨て)

1. 平成22年3月期第2四半期の業績(平成21年4月1日～平成21年9月30日)

(1) 経営成績(累計)

(%表示は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
22年3月期第2四半期	1,618	15.1	120	—	116	—	115	150.1
21年3月期第2四半期	1,405	—	2	—	5	—	46	—

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
22年3月期第2四半期	10.52	—
21年3月期第2四半期	4.21	—

(2) 財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率		1株当たり純資産	
	百万円	円 銭	百万円	円 銭	%	円 銭	円 銭	
22年3月期第2四半期	3,240	—	1,857	—	57.3	—	169.74	
21年3月期	3,377	—	1,764	—	52.2	—	161.27	

(参考) 自己資本 22年3月期第2四半期 1,857百万円 21年3月期 1,764百万円

2. 配当の状況

	1株当たり配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
21年3月期	—	0.00	—	2.00	2.00
22年3月期	—	0.00	—	—	—
22年3月期(予想)	—	—	—	2.00	2.00

(注) 配当予想の当四半期における修正の有無 無

3. 平成22年3月期の業績予想(平成21年4月1日～平成22年3月31日)

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	3,200	6.8	210	369.4	180	410.0	180	147.9	16.45

(注) 業績予想数値の当四半期における修正の有無 無

4. その他

(1) 簡便な会計処理及び四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 有

〔(注)詳細は、4ページ・定性的情報・財務諸表等 4. その他をご覧ください。〕

(2) 四半期財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更(四半期財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更に記載されるもの)

① 会計基準等の改正に伴う変更 無

② ①以外の変更 無

〔(注)詳細は、4ページ・定性的情報・財務諸表等 4. その他をご覧ください。〕

(3) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	22年3月期第2四半期	11,368,541株	21年3月期	11,368,541株
---------------------	-------------	-------------	--------	-------------

② 期末自己株式数	22年3月期第2四半期	427,816株	21年3月期	427,816株
-----------	-------------	----------	--------	----------

③ 期中平均株式数(四半期累計期間)	22年3月期第2四半期	10,940,725株	21年3月期第2四半期	10,940,725株
--------------------	-------------	-------------	-------------	-------------

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

上記に記載した予想数値は、現時点で入手可能な情報に基づき判断した見通しであり、多分に不確定な要素を含んでおります。実際の実績等は、業績の変化等により、上記予想数値と異なる場合があります。業績予想の前提となる条件等については、4ページ・定性的情報・財務諸表等 3. 業績予想に関する定性的情報をご覧ください。

・ 定性的情報・財務諸表等

1. 経営成績に関する定性的情報

当第2四半期累計期間におけるわが国経済は、世界な景気低迷の影響を背景に、企業収益の減少や雇用情勢の悪化から個人消費の低迷を招き、依然として非常に厳しい状況が続いております。

このような状況のもと、当社はリユース事業をさらに進化させ、積極的な買取、全数生産（商品化）及び売場への全数出し切りを継続して展示アイテム数を増加させ、さらに計画的な売価変更による商品鮮度向上をすすめ、豊富な品揃えと魅力ある価格設定でお客様の購買意欲を高め売上高の拡大を図ってまいりました。

また、買取査定、生産（商品化）、出し切り、売価変更の各作業の簡素化を実現し、マニュアルの整備とその標準化をすすめ、粗利額・率の向上ならびに経費削減に努めてまいりました。

(1) 売上高

(既存店)

既存店売上高は、営業政策を徹底推進させ、前年同期間比43百万円（3.6%）増収の12億63百万円となりました。

(新店)

前事業年度中に新たに開設した店舗（ブックオフ鎌倉手広店、オフハウス逗子店、ハードオフ・オフハウス横須賀佐原店及びブックオフ横浜本郷台店）5店の売上高は前年同期間比1億65百万円（454.5%）増収の2億2百万円となりました。

(移転・改装店)

前事業年度中に移転した店舗（ハードオフ・オフハウス鎌倉手広店）及び改装した店舗（オフハウス北久里浜店及びハードオフ・オフハウス横浜本郷台店）の売上高は前年同期間比4百万円（2.9%）増収の1億53百万円となりました。

この結果、売上高は前年同期間比2億12百万円（15.1%）増収の16億18百万円となりました。

事業部門別の売上高は以下のとおりです。

(オフハウス事業)

婦人服・メンズ衣料品、貴金属、バッグが順調に売上を伸ばし、売上高は前年同期間比94百万円（13.9%）増収の7億74百万円となりました。

(ハードオフ事業)

ソフト・コンピューター・ビジュアル商品の積極的な買取強化により健闘いたしましたが、売上高は前年同期間比11百万円（2.6%）減収の4億40百万円となりました。

(ブックオフ事業)

書籍（コミック・文庫本）や音楽ソフト・DVDソフトが順調に推移し新店の健闘が大きく、売上高は前年同期間比1億29百万円（47.2%）増収の4億4百万円となりました。

(2) 営業利益

(既存店)

既存店営業利益は、売上高が増加したこと及び売上総利益率が前年同期間比2.3ポイント改善したことにより、前年同期間比46百万円（69.5%）増益の1億13百万円となりました。

(新店)

前事業年度中に新たに開設した店舗の営業利益は、前年同期間は52百万円の営業損失でしたが、当四半期累計期間は業績が順調に伸びた結果、4百万円の営業損失となり大幅な改善となりました。

(移転・改装店)

前事業年度中に移転・改装した店舗の営業利益は、売上総利益率が前年同期間比4.9ポイント改善したこと及び経費を削減したことにより、前年同期間比23百万円（前年同期間は営業損失11百万円）増益の11百万円となりました。

この結果、営業利益は前年同期間比1億17百万円（4,836.9%）増益の1億20百万円となりました。

(3) 経常利益

営業外収益が14百万円、営業外費用が18百万円となり、経常利益は前年同期間比1億10百万円（1,884.6%）増益の1億16百万円となりました。

(4) 四半期純利益

当第2四半期純利益は前年同期間69百万円(150.1%)増益の1億15百万円となりました。

2. 財政状態に関する定性的情報

(資産)

流動資産は、前事業年度末に比べて90百万円減少し、11億75百万円となりました。これは主に商品が65百万円、現金及び預金が26百万円減少したことなどによります。

固定資産は、前事業年度末に比べて46百万円減少し、20億65百万円となりました。これは主に有形固定資産が25百万円、投資その他の資産が21百万円減少したことなどによります。

この結果、総資産は前事業年度末に比べ1億36百万円減少し、32億40百万円となりました。

(負債)

流動負債は、前事業年度末に比べて68百万円減少し、5億74百万円となりました。これは主に、短期借入金30百万円、1年内返済長期借入金が40百万円減少したことなどによります。

固定負債は、前事業年度末に比べて1億60百万円減少し、8億8百万円となりました。これは主に、長期借入金が1億34百万円、長期預り金が22百万円減少したことなどによります。

この結果、負債合計は、前事業年度末に比べ2億29百万円減少し、13億83百万円となりました。

(純資産)

純資産合計は、前事業年度末に比べ92百万円増加し、18億57百万円となりました。これは主に、利益剰余金が93百万円増加したことによります。

3. 業績予想に関する定性的情報

業績予想につきましては、平成21年7月31日に発表いたしました業績予想を修正いたしました。詳しくは、平成21年10月29日発表の「平成22年3月期第2四半期累計期間業績予想及び通期業績予想の修正に関するお知らせ」をご覧ください。

なお、上記の予想は本資料の発表日現在において入手可能な情報を前提としております。実際の業績は、今後様々な要因により大きく異なる結果となる可能性があります。

4. その他

(1) 簡便な会計処理及び四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

1. 棚卸資産の評価方法

当第2四半期累計期間末のたな卸高の算出に関しては、前事業年度末の実地たな卸高を基礎として合理的な方法により算定する方法によっております。

2. 固定資産の減価償却費の算定方法

四半期ごとの資産増減実績を加味した年間償却予定額の月割累計相当額から、以前の四半期決算に計上した償却累計額を控除した額を、当該四半期決算の償却額とする方法によっております。

3. 法人税等の計上基準

法人税等の計上基準は、年間業績予測に基づく簡便法により計算しております。

(2) 四半期財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

該当事項はありません。

5. 【四半期財務諸表】
 (1) 【四半期貸借対照表】

(単位：千円)

	当第2四半期会計期間末 (平成21年9月30日)	前事業年度末に係る 要約貸借対照表 (平成21年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	455,238	474,962
売掛金	16,045	15,411
商品	559,285	624,825
その他	144,668	150,267
流動資産合計	1,175,236	1,265,466
固定資産		
有形固定資産		
建物(純額)	383,295	402,917
土地	583,125	583,125
その他	86,886	92,281
有形固定資産合計	1,053,306	1,078,325
無形固定資産	4,774	4,996
投資その他の資産		
長期預け金	765,666	808,805
その他	241,435	219,576
投資その他の資産合計	1,007,102	1,028,382
固定資産合計	2,065,183	2,111,703
資産合計	3,240,420	3,377,169
負債の部		
流動負債		
買掛金	5,507	4,309
短期借入金	389,353	460,056
未払法人税等	9,900	13,997
賞与引当金	17,055	9,000
その他	152,788	155,965
流動負債合計	574,604	643,328
固定負債		
社債	200,000	200,000
長期借入金	456,577	591,402
退職給付引当金	648	2,105
その他	151,444	175,974
固定負債合計	808,669	969,481
負債合計	1,383,273	1,612,809

(単位:千円)

	当第2四半期会計期間末 (平成21年9月30日)	前事業年度末に係る 要約貸借対照表 (平成21年3月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	500,000	500,000
資本剰余金	1,681,733	1,681,733
利益剰余金	443,840	350,571
自己株式	△56,983	△56,983
株主資本合計	2,568,590	2,475,321
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	△30,055	△29,573
土地再評価差額金	△681,387	△681,387
評価・換算差額等合計	△711,443	△710,961
純資産合計	1,857,146	1,764,360
負債純資産合計	3,240,420	3,377,169

(2) 【四半期損益計算書】
【第2四半期累計期間】

(単位:千円)

	前第2四半期累計期間 (自平成20年4月1日 至平成20年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年9月30日)
売上高	1,405,994	1,618,832
売上原価	550,039	600,090
売上総利益	855,955	1,018,741
販売費及び一般管理費	853,519	898,486
営業利益	2,435	120,255
営業外収益		
受取利息	4,869	4,398
受取配当金	3,393	3,488
雑収入	18,891	6,746
営業外収益合計	27,154	14,632
営業外費用		
支払利息	13,830	10,879
社債利息	—	5,730
雑損失	4,826	1,952
支払手数料	4,969	—
その他	115	266
営業外費用合計	23,741	18,829
経常利益	5,847	116,058
特別利益		
投資有価証券売却益	47,966	—
特別利益合計	47,966	—
特別損失		
固定資産除却損	—	151
投資有価証券評価損	1,966	—
特別損失合計	1,966	151
税引前四半期純利益	51,847	115,906
法人税等	5,803	3,900
法人税等還付税額	—	△3,143
四半期純利益	46,043	115,150

(3)【四半期キャッシュ・フロー計算書】

(単位:千円)

	前第2四半期累計期間 (自平成20年4月1日 至平成20年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前四半期純利益	51,847	115,906
減価償却費	31,015	36,201
長期前払費用償却額	7,668	10,160
賞与引当金の増減額(△は減少)	△10,320	8,055
退職給付引当金の増減額(△は減少)	—	△1,457
受取利息及び受取配当金	△8,262	△7,886
支払利息	13,830	12,832
支払手数料	4,969	—
有形固定資産除却損	—	151
投資有価証券売却損益(△は益)	△47,966	—
投資有価証券評価損益(△は益)	1,966	—
売上債権の増減額(△は増加)	△8,671	△634
たな卸資産の増減額(△は増加)	△78,004	65,539
仕入債務の増減額(△は減少)	△2,455	1,198
未払費用の増減額(△は減少)	1,016	△5,530
未払消費税等の増減額(△は減少)	△20,752	17,569
その他の資産の増減額(△は増加)	—	△4,170
その他の負債の増減額(△は減少)	△20,297	△34,299
その他	△2,427	—
小計	△86,845	213,637
利息及び配当金の受取額	3,685	3,651
利息の支払額	△14,073	△13,062
手数料の支払額	△3,657	—
法人税等の支払額	△10,527	△8,112
法人税等の還付額	—	3,143
営業活動によるキャッシュ・フロー	△111,417	199,256
投資活動によるキャッシュ・フロー		
投資有価証券の売却による収入	86,693	—
投資有価証券の取得による支出	△64,034	△33,777
有形固定資産の取得による支出	△143,144	△11,113
長期預り金の受入による収入	42,000	—
長期預り金の返還による支出	△99,230	—
敷金及び保証金の回収による収入	36,372	53,092
敷金及び保証金の差入による支出	△3,000	—
その他の支出	△5,000	—
その他	189	227
投資活動によるキャッシュ・フロー	△149,154	8,428

(単位:千円)

	前第2四半期累計期間 (自平成20年4月1日 至平成20年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年9月30日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(△は減少)	100,000	△30,000
長期借入れによる収入	200,000	—
長期借入金の返済による支出	△154,456	△175,528
社債の発行による収入	100,000	—
配当金の支払額	—	△21,881
財務活動によるキャッシュ・フロー	245,544	△227,409
現金及び現金同等物に係る換算差額	0	0
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△15,027	△19,724
現金及び現金同等物の期首残高	371,761	464,962
現金及び現金同等物の四半期末残高	356,733	445,238

(4) 継続企業の前提に関する注記

当第2四半期累計期間(自 平成21年4月1日 至 平成21年9月30日)
該当事項はありません。

(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

当第2四半期累計期間(自 平成21年4月1日 至 平成21年9月30日)
該当事項はありません。

6. その他の情報

(1) 仕入及び販売の状況

1. 商品仕入実績

当第2四半期累計期間における商品仕入実績を事業部門別に示すと、次のとおりであります。

事業部門別	金額(千円)
ハードオフ事業	158,327
オフハウス事業	227,314
ブックオフ事業	148,908
合計	534,550

(注) 1 金額は仕入価格によっております。

2 上記の金額には、消費税は含まれておりません。

2. 販売実績

当第2四半期累計期間における販売実績を事業部門別に示すと、次のとおりであります。

事業部門別	金額(千円)
ハードオフ事業	440,216
オフハウス事業	774,168
ブックオフ事業	404,447
合計	1,618,832

(注) 1 金額は販売価格によっております。

2 上記の金額には、消費税は含まれておりません。